



第 3 章

計画の目標



望ましい環境像とは…

私たちの暮らす五泉市の環境について、「こうなってほしい」、「こうあるべきだ」と思い描く、将来ビジョンであり、下図のような流れで設定しました。

これからの五泉市の環境として重要な事は？

市民・事業者・中学生のアンケート結果として

水辺のきれいさが大切！

山などの自然の美しさが大事！

静けさなども重要です！

安心して暮らせるまちにして！

空気も爽やかでなきゃ！

地球環境にも関心がありますよ！

結果を踏まえて

まちづくり環境会議の意見として

ごみの減量化と不法投棄の解決を！

五泉も地球温暖化*に取り組むべき！

「水のまち」なのに水質汚濁？ 汚水処理対策が重要です！

清流や地下水を守っていこう！

これからは環境保全型農業*！

リユースやリサイクルを徹底しましょう！

まちづくり環境会議の様子

将来に引き継いでいこう！

このような問題を解決しなければ

水

川（清流）、泉、池、地下水、湧水、用水路等を表します。

人にやさしい

アンケート結果においての理想第1位「安心して暮らせるまち」を環境全般における安全、安心の確保及び充実として表します。

せんと 泉都

五泉市の環境特性である豊かな水環境を表現するとともに、将来もこうあるべきという都市像を表します。

緑

山、森、（生み出される）空気、農地、公園、花等を表します。

望ましい環境像

環境面の将来ビジョン

水と緑を未来へ紡ぐ

人と地球にやさしいまち せんと 泉都ごせん

未来へ

次世代への継承を表します。

つむ 紡ぐ

地場産業であるニット、織物と関連させるとともに、【撚糸】単糸を2本以上合わせて撚りをかけた糸という意味から、市民、事業者と五泉地域、村松地域を結ぶネットワーク、また、協働*、共生、学習、啓発、情報発信等を表します。

地球にやさしい

アンケート結果において、市民、中学生、事業者とも高い関心を示す地球環境問題への取り組みを表します。

2. 計画の基本目標



望ましい環境像の実現に向けて、次の5つの基本目標を設定します。

基本目標

豊かな自然と風土を育み、未来に継承するまちづくり

本市は、美しい清流や広大な森林など豊かな自然に恵まれています。

このような自然環境は、多くの野生動植物の生息・生育環境であるとともに、水を活かした織物のまちや緑あふれる城下町と相まって、独特の風土と景観を形成してきました。

このすぐれた自然を本市の財産として、将来の世代に良好な状態で引き継ぐためには、自然と親しみ、多種多様な生態系を守るとともに、自然と歴史・文化が調和した景観を保護していくことが重要です。

このためには清流や森林、里山^{*}を保全する取り組みや、環境保全型農業^{*}を積極的に推進する必要があります。



私たちは、豊かな自然と歴史・文化を守り、
育んでいくとともに、未来に継承します。



環境目標

豊かな植生と生態系を守る

環境保全型農業の振興を目指す

豊かな自然とふれあえる場をつくる

自然と歴史が調和した景観づくりを進める

基本目標

きれいな水と大地、さわやかな空気のもとで、
穏やかに暮らせるまちづくり

本市は古くから水に恵まれた土地であり、豊富で良質な地下水は水道水源であるとともに、市内のいたるところに掘られた井戸は市民の生活用水として利用されています。なお、この地下水は精密機械工業や食品加工業などの工業用水としても活用されています。

また、本市の広大な森林は、多くの市民が満足しているさわやかな空気を生み出しています。

この私たちの健康的な生活に必要な不可欠な安全・安心な水と空気は、将来にわたって安定的に確保しなければならないものです。

さらに近年では、道路交通網や水に親しめる公園などの整備が進展し、市民生活の利便性が向上するとともに、潤いと安らぎを感じられる快適環境が形成されています。

しかし、一部で見られる水質汚濁や騒音、悪臭などにより、穏やかな暮らしが損なわれるおそれがあることから、今後も対策を強化する必要があります。



私たちは、きれいな水を育む大地とさわやかな
空気を守り、安全・安心に暮らせる環境を整えます。

環境目標

潤いと安らぎを感じられる快適環境をつくる

さわやかな空気を守る

水の美しさとおいしさを守る

良好で安全な生活環境を保つ

基本目標

全ての物を健全に循環させ、 資源を大切にす環境負荷の少ないまちづくり

近代社会構造である大量生産・大量消費・大量廃棄を基調とした事業活動と生活習慣は本市においても例外ではなく、年間約22,000トンにも及ぶ廃棄物処理量は増加の傾向にあります。

また、エネルギーや資源の需要が拡大しており、やがて枯渇する懸念が生じていることから、私たちは物を効率よく生産・消費し、できるだけ廃棄物を排出しない循環型社会^{*}を築くことが急務となっています。

廃棄物の減量化や再利用、リサイクルなど従来の取り組みを強化することはもちろんのこと、新たに廃棄物を排出しない取り組みを推進する必要があります。

さらに、環境に配慮した製品の優先的な利活用や廃棄物の不法投棄を絶対に許さない地域づくりを進めることも重要です。



私たちは、生産・消費される製品などを着実に循環させ、
資源を大切にし、自然環境や生活環境への負荷を減らします。



環境目標

資源循環型の社会をつくる

地球温暖化^{*}の進行は、社会経済活動に基づく温室効果ガス^{*}の排出に起因することは明らかであり、近年頻発する異常気象にも影響を与えていると言われています。

日本の年平均地上気温は100年間で1.07℃上昇しましたが、1990年代以降は特に高温になる年が多くなっており、このまま地球温暖化が進行すると、自然災害の増加や農作物、生態系への影響、さらには私たち人間への健康被害が懸念されています。

なお、この問題に関しては、日本を含む先進諸国の果たすべき役割が大きく、本市においても早急に対処しなくてはならない課題です。

また、地球規模の環境問題であるオゾン層^{*}の破壊や酸性雨^{*}の影響などにも関心をもち、一人ひとりがまずできることから取り組むことが重要です。



私たちは、地球環境問題を今一人ひとりが
やらなくてはならない課題として、積極的に取り組みます。

環境目標

地球温暖化を防ぐ取り組みを進める

地球規模の環境問題に貢献する

基本目標

みんなで学び参加する「環境パートナーシップ※」のまちづくり

環境の保全と創造に関する取り組みを進め、望ましい環境像の実現を図るためには、まず私たちが日常生活の中で環境に負荷を与えている事実を認識し、地域や地球環境の現状などを理解することが必要です。そのうえで環境教育*の積極的な推進と学習機会の提供に努めることにより、環境に配慮したライフスタイルの実践や自然を大切にする意識を高めることが重要です。

また、様々な環境問題を解決していくためには、市民・事業者・行政の各主体が情報を共有したうえで協働*して取り組む必要があります。

このためには、良好な連携体制(=パートナーシップ)の形成が不可欠であり、環境ネットワークも含めた組織づくりが重要です。



私たちは、各主体の協働のもとに、市民自らが学び参加する「環境パートナーシップ」体制をつくります。



環境目標

環境を守り育てるひとづくりを進める

地域や事業者の環境活動を支援する

環境ネットワークづくりを進める



3. 環境施策の体系



望ましい環境像を実現するための基本目標に対して環境目標及び施策方針を定め、全体として次のような環境施策の体系とします。

望ましい環境像

水と緑を
つむ
未来へ紡ぐ
人と地球に
やさしいまち
せんと
泉都ごせん



